

命をつなぐ 119番の実は…

救急の
ウラガワ

最寄りの消防署からも
消防車を向かわせましょう

はい、こちら
消防指令センターです

目の前で事故が起きて、
人が倒れています

父が「苦しい」と言って
胸を押さえて倒れちゃって…

今、意識はありますか？
声をかけたら反応しますか？

子どもがけいれんしていて…
とにかく早く来てください！

落ち着いてください。
救急車を向かわせます。
住所はどこですか？

市民の安心を支えるため、昼夜を問わず現場へ駆けつける救急隊員たち。私たちの暮らしのすぐそばで、救急隊員は日々、命をつなぐ判断と行動を積み重ねています。
今回はあまり知られていない、救急の仕事のウラガワを見てみましょう。

問合 救急課／Tel.674-7979

ID 181468

救助・消防・救急隊員はみんな消防士

消防署で働く人たちは、全員が消防学校で消防活動に必要な知識を学び、訓練を受けた「消防士」です。

消防学校卒業後は、それぞれの適性や専門性に応じて配属されます。所属する隊は下欄の3つがあり、所属先が変わることも。一人一人が最前線で、市民の安全を守るために日々活動しています。



今回の主役



救助隊員

レスキュー隊とも呼ばれる、人命救助の専門部隊の隊員。消防学校で特別な訓練を受け、知識や技術を身に付けています



消防隊員

主な仕事は火災現場の消火活動。日々の業務では消火栓の点検なども行います。消防士のほとんどがこの仕事を経験します



救急隊員

救急車で出動し、傷病者を医療機関に搬送します。搬送中に医療行為ができる救急救命士の資格を持つ隊員もいます

1種類の隊にとどまらず異なる隊に所属することもあります。さまざまな仕事を経験する隊員を増やし、組織力を高めているんですよ

ウラガワ案内人
救急課
中村隆太さん

消防隊員を3年、救急隊員を11年経験。
趣味はランニングで、フルマラソン3時間切りを目指して日々トレーニング中

救急の仕事はこうして動く

救急隊は、市内で起こるさまざまな救急事案に備え、常に準備をしています。119番通報が入った瞬間から動き出し、指令が入ると同時に、隊員たちは現場へと向かいます。

※平均所要時間

約2分

約6分

約18分

約8分

①通報



通報者から
場所や状況を
聞き取る

②出動



サイレンを
鳴らして
現場へ急行

③到着



けがや病気の
状態を確認して
救急車へ

④処置



酸素投与など
必要な処置をして
病院へ向かう準備

⑤搬送



隊員が状態を
確認しつつ、
安全に搬送

⑥引き継ぎ



傷病者の状態など、
正確に情報を共有

ウラガワ① 救急隊

傷病者を病院に搬送するまでのウラガワを見てみましょう

消防指令センターです。
火事ですか？救急ですか？

119番通報を受ける市消防本部の消防指令センター。市内全ての通報をここで受け付け、市内に10カ所ある拠点から最適な車両を選定して出動指令を出す、司令塔の役割を果たします

通報を受けた瞬間から始まる 命をつなぐレース

119番通報が入った瞬間、消防指令センターでは複数の動きが同時に走り出します。通報者から状況を聞き取りながら、最寄りの救急隊へ出動指令を送ります。救急隊は、出動先などの情報が記された指令書を頼りに現場へ向かいます。



消防指令センター
西田啓亮さん

心がけていることは？

ここは命を救う出発点。救急隊がスムーズに行動できるように、正確で素早い聞き取りを心がけています

消防士を目指したきっかけは？

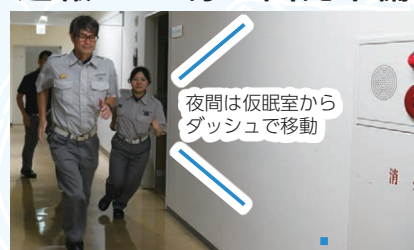
先輩に誘われてなんとなく参加した就職説明会。そこで話を聞いて、救急車に乗る仕事に興味を持ちました

通報から病院到着までの ウラガワに迫る



※所要時間は状況により前後します

通報から1分で出発準備



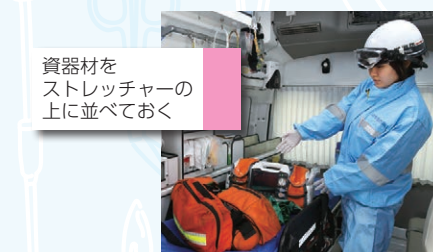
「急病、第1出動、〇〇救急1、高槻市〇〇町地内」。この指令を合図に、救急隊員は消防署のどこで何をしても、すぐに出動の準備を始めます。

3人体制で現場へ出発



救急車には3人の隊員が乗車。全体を指揮する隊長、傷病者の対応を行う隊員、運転や資器材を管理する機関員と、予め役割が決まっています。

到着までの情報収集



車内から隊員が折り返し電話（プレアライバルコール）。現場の状況確認や必要な資器材の準備など、到着するまでの時間を最大限救命に役立てます。

救急車のウチガワをチェック

①防振ベッドとストレッチャー

車の揺れを伝えにくい防振性のベッド。傷病者をストレッチャーごと搬入できます

②バックボードとスクープストレッチャー

脊髄・椎損傷の恐れがある傷病者を固定する全身固定器具と搬送用の担架が格納されています

③半自動式除細動器（AED）

救急救命士が使用できるプロ仕様のAEDです



救急隊
橋田希々果さん

救急車の中って全国共通？

規格によって異なりますが、大体同じです。毎朝、器具の点検をしますが、使いやすい配置にセットし直す隊員もいますよ

消防士を目指したきっかけは？

ドラマを見て、人の命を守る救急隊員の姿に憧れ、私も誰かの力になれる救急隊員を目指そうと思いました

吸引器
気道にたまった液体などを吸引します

人工呼吸器
マスクなどを介して口から酸素を自動で肺に送ります



患者監視装置（モニター）
心電図、呼吸、血圧などを測定し、モニターに表示されるデータをチェックします

PA連携

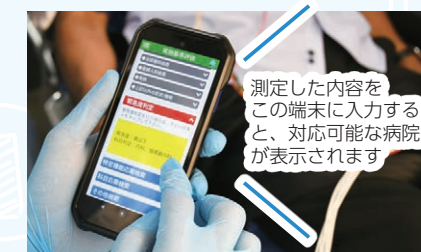


ポンプ車（Pumper）と救急車（Ambulance）が連携

救急車を呼んだのにポンプ車が来た、ということがありますが、ご安心を

人手が必要な場合は救急処置ができる消防隊も出動。先に到着したら処置を行います。救急隊が搬送に集中できるように、安全確保などのサポートもします。

バイタル測定で病院選定



バイタルサイン（体温・脈拍数・血圧・呼吸数・血中酸素飽和度）の測定を行い、問診。この内容をもとに、隊長が対応可能な最も近い病院を選定します。

医療機関へ



搬送完了。そのまま次の現場に向かうこともあります

傷病者の状態（バイタルサインの伝達）、実施した処置、既往歴などを医療機関に伝え、治療が途切れないように連携します。



救命への最善手を打つ医師が同乗

119番通報時に重篤な状態と判断した場合は、所轄救急隊（最寄りの消防署の救急隊）の出勤の後、大阪医科薬科大学病院救命救急センターの医師が同乗する特別救急隊（特救隊）が出勤します。

医師が現場に駆け付け、即座に高度な医療行為を開始できるのが最大の特長です。

消防指令センターが出勤を判断

「胸痛があり、冷や汗がある」「車が横転している」など特定の症状や事故の場合、消防指令センターが特救隊を出勤させます。



判断ミスを防ぐため、消防指令センター内の職員間で電話の内容が共有できるようになっています

1秒も無駄にしない連携

所轄救急隊が先に到着したら、ドクターカーで移動中の医師が電話で薬剤投与などの指示※を伝えます。

ドクターカーが到着すると、所轄救急隊から特救隊へバトンタッチ。医師による高度な救急医療行為が行われます。1秒も無駄にしない、命をつなぐリレーが展開されます。

※市では、所轄救急隊にも必ず、救急救命士の資格を持つ隊員を配置。特救隊到着まで電話や無線機で指示を受け、命をつなぎます



医師
本田浩太郎さん



市内に1台だけのドクターカー。出勤に備え、医師が輪番で待機しています



通報者とのやり取りで大事なことは？

特救隊が出勤する基準となる状況をピンポイントに聞くこと。また、すでに救急車が向かっていますよ、そこらの状況を伝えと、通報者も落ち着きを取り戻して、詳しく話してください



消防士あるある聞きたい

個人的な外出でも、まず非常口を探して、避難のシミュレーションをしますね



消防指令センター
宮本早苗さん



普段意識していることは？

搬送中も隊員と意見を交わしながら処置したり、後日振り返りの時間を設けたりして、積極的にコミュニケーションを取っています。「医師だから」と肩書きで壁を作るのではなく、チームでやっているんだという意識が大事。切迫した場面でも、自然と呼吸が合います

特救隊活動事例

電車内でけいれん！みんなでつなぐ命のリレー

JR摂津富田駅の電車内で

駅の事務室にいたJR西日本の岡田さんに連絡が入りました。「電車内で急病のお客様がいます、と。急いで駆けつけると、電車内で男性（Aさん）が倒れていて。AEDを持ってくよう言われていたので、心の準備はしていたんですが」。到着すると、乗客として居合わせた看護師がすでに胸骨圧迫（心臓マッサージ）をしていたそうです。「これは大変だ、と思い、すぐに胸骨圧迫に加わりました」。

乗客・駅員・隊員のリレー

胸骨圧迫には岡田さんの同僚・中矢さんも加わります。「勤務を終えた直後だったんですが、慌てて向かいました。救急隊が到着するまで、私と岡田と、もう1人の駅員と3人で胸骨圧迫とAEDの使用を続けました」。

通報から約5分、所轄救急隊が到着しましたが、この時点でAさんはまだ心肺停止状態。懸命に胸骨圧迫を続けていた岡田さんと中矢さんは「救急車のサイレンが聞こえるまでは不安でしたが、救急隊が来たときは安心しました。あとは、助かってほしいと願うばかりでした」と当時の心境を振り返ります。

心拍再開 特救隊が到着

「ドクターカー同乗医師の指示で、点滴や薬剤投与を実施したところ、搬出の最中に心拍が再開した、という報告を所轄救急隊から受けました」と話すのは特救隊の堀池さん。特救隊の医師は現場に向かうドクターカーの中から、電話や無線機で投薬などの指示を所轄救急隊に伝えます。そして数分後には特救隊が到着。「ここからは我々の出番。搬送中も、医師と連携して処置を続けます」。

関わった人の声とともにお届け



（写真左から）JR西日本の中矢憲太さん・岡田直大さん、特救隊の堀池真司さん

再び止まる心臓

搬送中にAさんの心臓が再び停止。緊張が走りましたが「搬送中でも高度な医療を実施できるのは、医師が同乗しているからこそ」と堀池さん。「医師と連携し、電気ショック、気管挿管などを実施。すると心臓がもう一度動き始め、病院到着まで命をつなぐことができました」。

全てが1つに

岡田さんと中矢さんは社内研修で年に1回、救命講習を受ける機会があるそうです。「講習を思い出しながら、なんとか胸骨圧迫ができました」と話します。堀池さんは「救急隊が到着するまでの処置で、救命率は大きく変わります。現場の様子を見て、直感ですが、きっと助かるだろうと思いました」と振り返ります。

現場に居合わせた人の勇気ある行動、救急隊と特救隊の連携、医師による搬送中の医療の展開。その全てが1つにつながって、1人の命を救った事例でした。

※Aさんは約4週間の入院を経て、社会復帰しました

ミニコラム 全国平均より優れた救急医療体制

特救隊の活躍は、市の救急医療体制が全国的にも優れていることを示す一例。市では、救急車が現場に到着するまでの時間、病院に収容するまでの時間でも全国平均を上回っていて（下図）、高い水準の救急医療体制を確保しています。

現場到着
所要時間

8.4分
(9.8分)

病院収容
所要時間

35.6分
(44.6分)

※いずれも令和6年。カッコ内は全国平均



全国平均以上の理由を教えてください

全国的に見ても医療機関が充実している高槻市では市内搬送率が高く、搬送後すぐに次の対応へ移れるから。また、ICTを活用して受け入れ先を迅速に把握しているんですよ



消防士あるある聞きたい

安全確認でよく使う「〇〇よし！」が口癖になります。インタビューよし！



特救隊
堀池真司さん

日々のウラガワ

救急隊に限らず、消防士の仕事のウラガワをQ&Aでまとめました

どんな勤務体制？ 休憩はとれるの？

消防士の勤務時間は1回24時間

消防士は、8:45～翌8:45の24時間が勤務時間。もちろん食事や休憩の時間はありますが、何をしているときでも、出勤指令が最優先です。外出すると素早く出動できなくなるので、消防署内で過ごします。



自分の指定席
決まりがち

食事は各自で用意

昼食や夕食は、消防署内でとるのが決まり。弁当を持参するなどして、各自で用意します



命を救う
パワーになれ！

体を鍛えるのも仕事

消防士にとって体を鍛えることは立派な仕事。消防署内のトレーニング室で、マシンを使ったトレーニングをします



日課の
点検

(指差して)
赤色灯よし！

普段どれくらい 訓練をしているの？

消防署内の訓練施設で、ほぼ毎日訓練を実施。救助技術を競う全国大会で、市消防本部のチームが入賞するなど、多くの実績を誇ります。基本的にはチームで訓練しますが、時には一人で黙々と訓練をすることも。

訓練を見に行ってもいいの？

もちろん、自由に見学してOK！
ぜひ一度足を運んでもらって、臨場感を味わってみてほしいです

消防士を目指したきっかけは？

東日本大震災の被災地で、危険を顧みず人命救助を行う救助隊に憧れて、自分も目指すようになりました



救助隊
圓岡将輝さん



〇〇町だったら
あの道を通れば
早いですね

出勤指令時に渡される
指令書の住所を見て、
瞬時に頭の中で道順を
組み立てます

市民向けにどんな 活動をしているの？

普通救命講習を開催しています

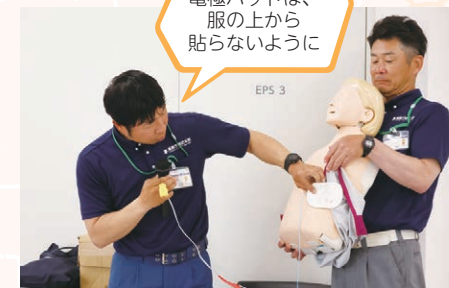
傷病者の近くに居合わせたとき、何をどうすればよいか、分からないことも多いものです。

普通救命講習では胸骨圧迫やAEDの使用といった、いざというときの初期対応を身に付けることができます。

※26ページに関連記事



グループに分かれて実習



電極パッドは、
服の上から
貼らないように



肘は真っ直ぐ伸ばして、
グッと力を込める！

AEDを使うときの注意点を解説

講習で伝えたいことは？

皆さんが自分の手で命を守ることの大切さ。救急車到着までにできることを伝える活動も、大事な仕事です

消防士を目指したきっかけは？

阪神・淡路大震災で被災したとき、とても優しく接してくれた救急隊員に勇気づけられ、自分も困っている誰かに勇気を与えたいと思いました



救急課
植西祐希さん

最後に/ みんなで考えよう 救急車の使い方

救急車の出動件数は毎年増加傾向で、搬送後、入院の必要がなかったケースは61.0%（令和6年）と全国平均の46.8%（令和6年）と比べると高い数値に。救急隊の数にも限りがあります。本当に必要な人に救急車が向かえるよう、ご協力をお願いします。

本当にあった
救急要請
その通報
ちょっと待って



蚊に刺された



膝を擦りむいた



病院まで送って

救急のウラガワを支えるのはあなた

市民の皆さんの判断が、救急のウラガワを支えています。緊急性のない通報は控えましょう。救急車を呼ぶか迷ったときは「#7119」か「#8000」にまずは電話を。

呼吸をしていないなど急を要する場合は、ためらわず119番通報をしてくださいね。

適正利用に
ご協力を



令和6年の出動件数は25,450件。
約21分に1件出動しています



救急車を呼ぶか迷ったときは…

#7119 (24時間受け付け)
救急安心センターおおさか
医師・看護師・救急救命士から電話でアドバイスを受けられます

#8000 (19:00～翌8:00)
小児救急電話相談
夜間の子どもの急病時、小児科医・看護師が相談に応じます